

「毒麦」のたとえ

マタイ福音書 13章 24-30

(そのとき、) イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。』主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』

きょうのテキストは先週からのシリーズで、種まき・畑に関するたとえ話です。種まきは一見すると無駄なように見えるが、よい土地に落ちて大収穫になる。道端に落ちた種は一粒のまま、でも種として死んで実を結べば100倍、100粒になる。自分のいのちを生きようと我を張ればそのまま、でも自分に死んで新しいいのちに生きれば豊作となる、それは「救い」となる、というのが先週の話でした。

きょうのたとえはそんな豊作が約束されているよい畑に敵がやってきて毒麦を蒔いた。このままじゃせつかくのよい土地の畑が台無しになる。そこで、毒麦を抜こうと僕（しもべ）たちが言う。しかし、主人は抜いてはいけない、そのままにしておけ「毒麦を集める時（良い）麦まで一緒に抜くかもしれない」からと答えます。そして、刈り入れのときに、毒麦と麦を分けて収穫するように刈り取り担当にしておく、と云ってたとえ話は終わります。

イエスの「この世」観というか現実認識すごいところはきょうの毒麦のはな

しです。イエスは浮き世離れした浮かれ話をしてしているのではない、深く人間を知り神を知っているからこそ「救い」を説くだけには終わらず毒麦のたとえを語りました。

<イエスのもとに集う人たち>

ところで、イエスのもとに集まってきた人々の中には、社会の底辺で泥まみれになって生きている人々が大勢いました。大酒呑みもいれば、娼婦と呼ばれていた人々もいます。彼らはイエスと出会い、イエスから生きる力と光を汲み取ります。しかし、長年、社会の底辺で生活することによってここに染みこんでしまったものの考え方や、生活態度をすぐに変えることは困難なことです。となれば、彼ら、彼女らは「イエスに従う者となったからには倫理的、道徳的に立派に生きなければならない」と思い込んでいる「社会的な常識や教養」にこだわる人たちの差別、蔑視の対象になってしまう恐れがあります。たとえば、共同体（教会）の中でこの「社会常識や教養にこだわる人々」が多数派を占めれば、「大酒呑み、娼婦」といわれる人々は締め出される恐れがあります。よい麦を守るために「行って毒麦を抜き集めておきましょうか」というたとえ話のなかの僕（しもべ）の言葉は、人間の自然な反応です。これが麦のはなしでしたら、たとえ間違った選別をしてもたかがしれた話です。しかし、人間を対象にした選別となるとことは重大です。ひとつ間違えれば、神の支えを本当に必要としている人々が追い出されてしまいます。この場合、自然な反応をすることは危険である以上に間違いなのです。

<この世の差別>

神と、一人ひとりの人間が触れ合う心の奥底は神秘です。だれものぞくことはできません。外見から見れば社会の落伍者と見えるような人がしっかりと神につながれ、逆に、社会的に地位もあり教養もあり、人格者のように見える人が、その内側は腐り果てている、ということもあるかもしれません。神の見る目と人の見る目はあきらかに違います。イエスは「刈り入れまで両方

とも育つままにしておきなさい」とたとえの中で語ります。人間がする評価、選別が幅を利かすことのないように、この世での人間に対するあらゆる選別に「ノー」と宣言したのです。イエスを支えるものは「神は愛である」という信念でした。宗教が人々から希望を奪うようなことがあってはならないのです。これが原則です。

でも、もし今あなたが差別される側だったら、そのときは敵から迷わず逃げ出してください。相手は追いかけてきてあなたを襲うかもしれない、それでも出る限り、精一杯の力で逃げ切ってください。神の恵みは必ず現れます、それはあなたが思っていたかたちではないかもしれませんが。しかし、神は思いもかけないかたちで救いの道を用意してくださいます。イエスはあなたと共におられます。

<世の終わり>

この世では人間を選別してはならないと訴えるイエスが世の終わりには選別があることを明言していることは軽視できません。その選別の基準とはなにか、それは人と人とのかかわり方です。

もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。マタイ 6:14-15

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。(中略) この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。マタイ 25:35-40

掟を守ったか否かは問題にされず、人間に対してどれだけ優しく接したか、あなたはどのように生きてきたか、これが裁きの基準だとイエスは語っています。
